

福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

(コミュニティづくり)

- 自治体と住民がどのようにつながるかが課題。従来の行政主導では困難であり、自治体との共働が重要であり、越前市の例で言えば「地域自治振興会」が参考になるのではないか。
- 自治会活動が主となり、全体を網羅したコミュニティづくり（体制化）が必要。地域におけるリーダーづくりや若年層の参加が課題。
- 自治会と公民館との関係は市町長部局と教育委員会部局の組織の違いがある。館長が非常勤で地域の状況を知らないなどの弊害がある。
- コミュニティづくりの活動拠点が公民館となってきている。公民館の職員についても地域の住民のニーズを聞く力を育てるセミナー（職員の資質向上）を実施している。
- 将来ビジョンでは公民館の位置付け、役割を打ち出してほしい。住民主体で動くように。またコミュニティビジネスの拠点になるとよいと考えている。コミュニティビジネスは生きがいづくりにもなる。
- 県民活動センターがA O S S Aの7階にあるが、本当にコミュニティ活動をサポートしているのか。情報を入力するためだけに、駐車料金を毎回取られるのはどうか。
- 地域の特性を活かして、後継者となるリーダーづくりが必要。現在の状況として、高齢者は元気であるが、若者の数が少なく、女性、婦人会が弱体化している
- 子ども会活動、老人活動で「公民館」は重要な役割を果たしている。現状として、80歳以上の高齢者の単独世帯は430世帯中100世帯である。小浜西組の活動は、元々は空き家対策であったが、現在は誇りをもって地域に住み続けてもらう活動になっている。
- 地域活動は行政が少し手を貸してくれると伸びる。地域活動であっても、住民の生活者目線が必要。平泉寺を世界遺産にというが、逆に規制がかかり、地元の生活者に不都合が生じている。
- 小原地区はコミュニティが崩壊した地区である。コミュニティの再生には母体が必要であるが、小原の場合は森林組合が母体となった。あくまで主体は住民であること。今後のコミュニティはNPOや企業が担うようになっていくだろう。リーダーづくりが上手くいけばコミュニティもうまくいく。
- 小さな集落においては、10年後よりも明日、明後日の生活が重要である。また、廃屋の処理が課題である。農業地域であれば、農作物の特産化のフォローなどで地域活動を行う必要がある。地区に継続的な組織を設置すべきである。
- コミュニティビジネスについては、行政の枠組みに拒否反応を示される団体の方が多い。活動を認めて、背中を押すような施策を展開していきたい。